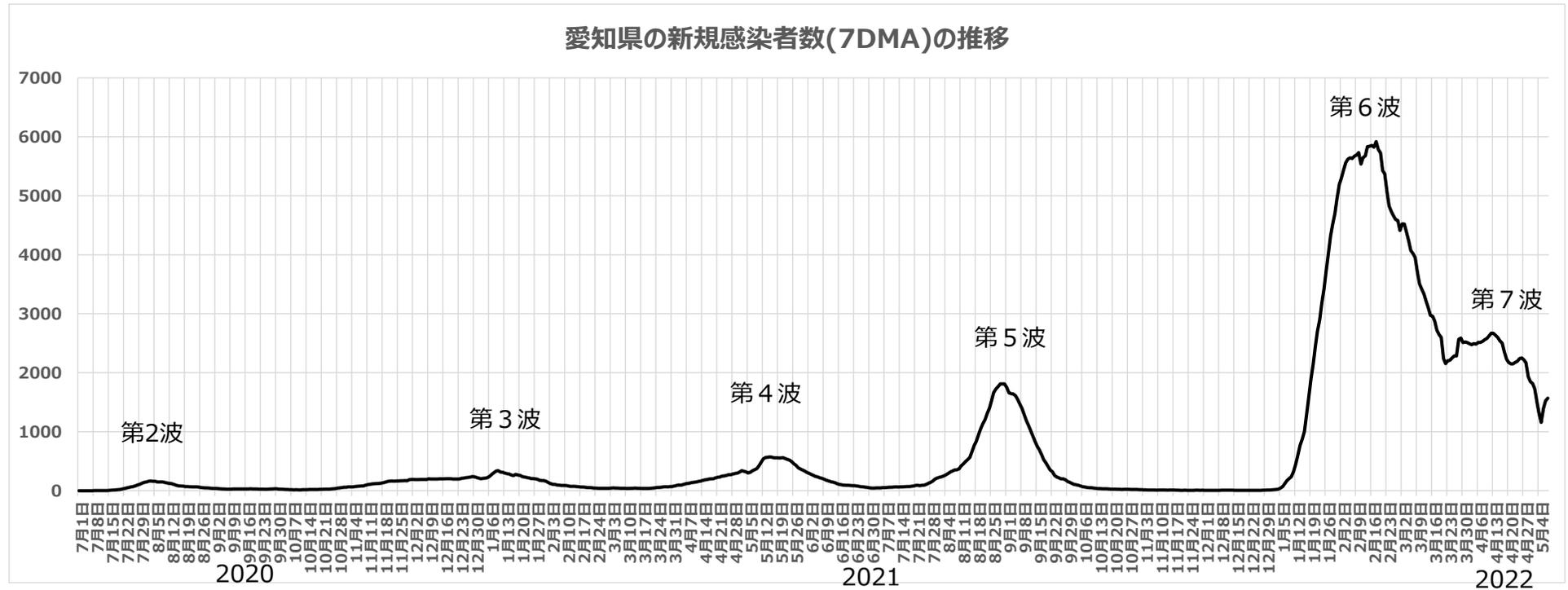
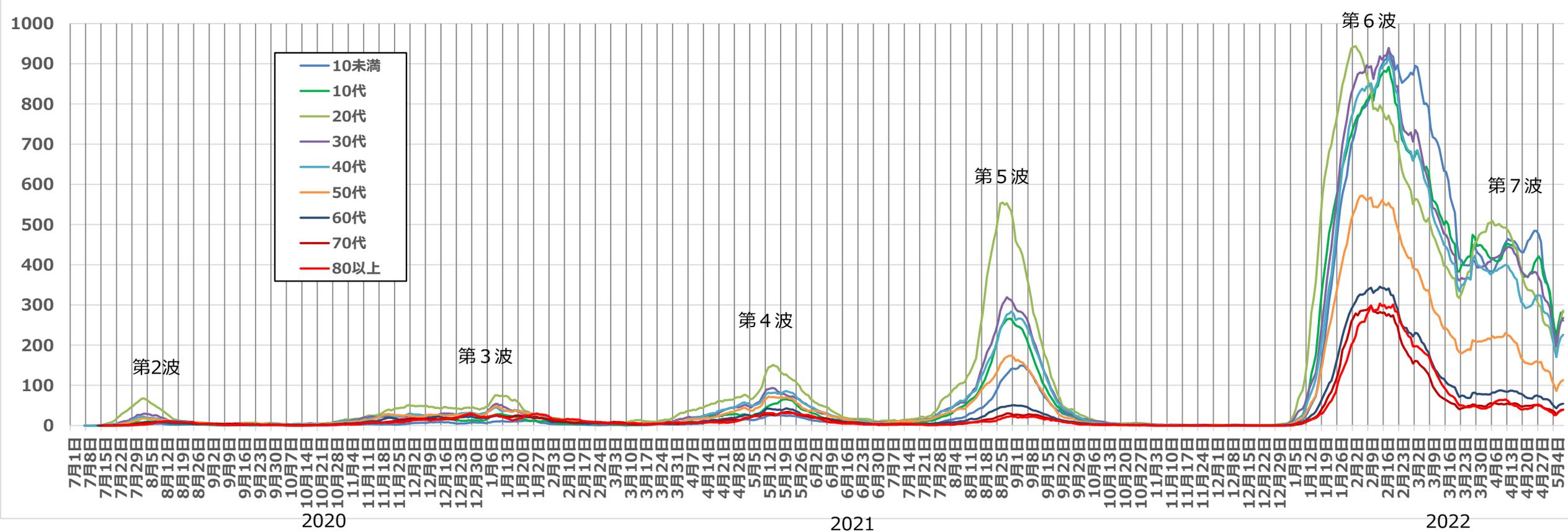


年齢別にみた愛知県のCOVID-19感染



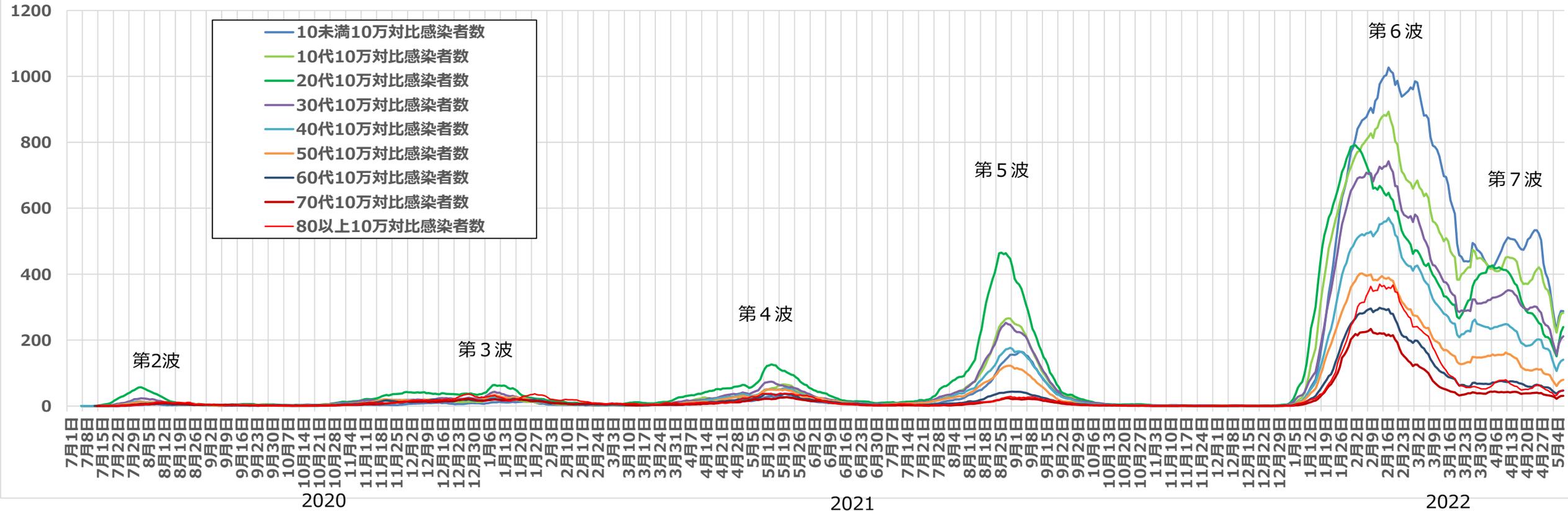
我が国の把握されたCOVID-19累計感染者数は800万人を超え、愛知県でも2022/5/9に50万人(人口の7%)に達しました。第159報では、愛知県の第6,7波(オミクロン株流行)を中心に年齢別にみたCOVID-19感染について検討を行いました。加えて、レポートの最後に小児科医療従事者のCOVID-19感染についても言及しました。

愛知県の年齢階級別の新規感染者数(7DMA)の推移



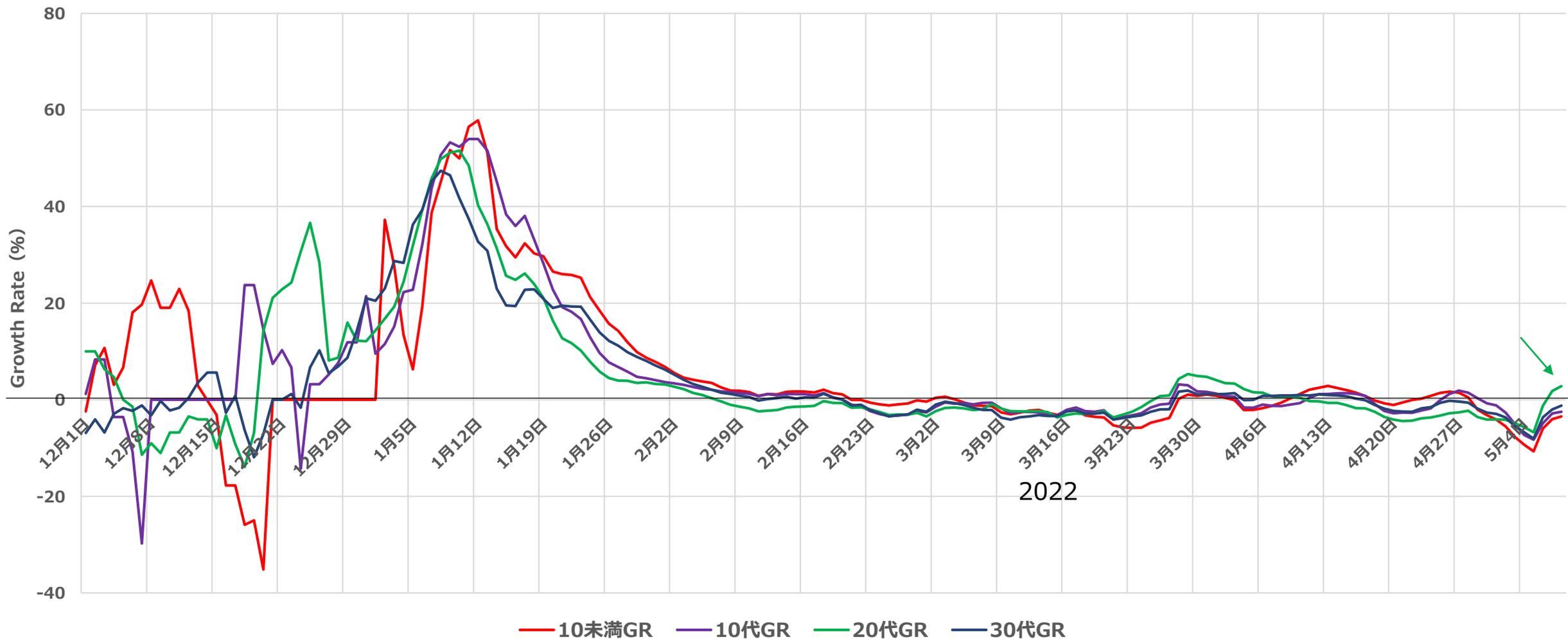
巻頭ページを年齢別で分けた図です。第5波までは感染の主体は20代ですが、第6,7波では10未満から40代までが肩を並べます。「ごちゃごちゃ」していますが...

愛知県の年齢階級別の10万対比新規感染者数(1週間)の推移



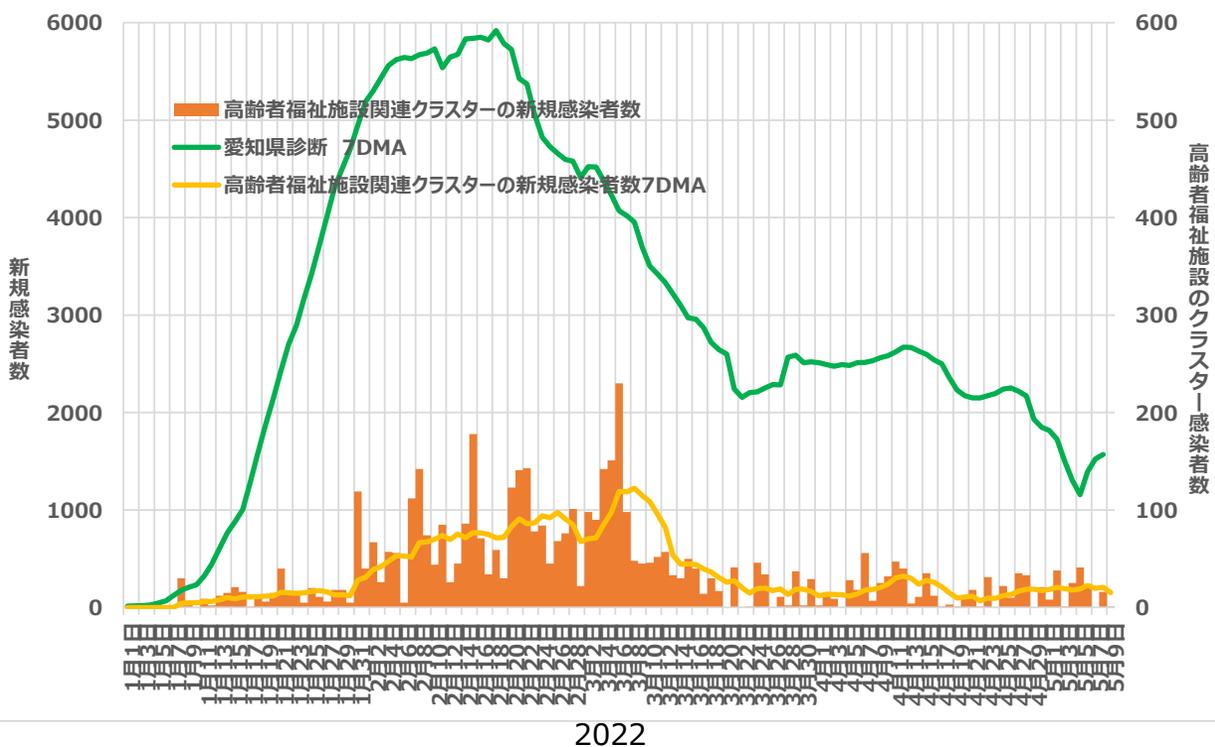
各々の年齢別人口の10万対比で感染者数を見ると、第6,7波では10未満が断トツの第一位、第二位は10代、そして、20代、30代は第三位です。よくみると、第6波の初期段階では20代が第一位ですが、以降は10未満が感染の主体・牽引車です。

愛知県の第6,7波での年齢階級別 Growth Rateの推移

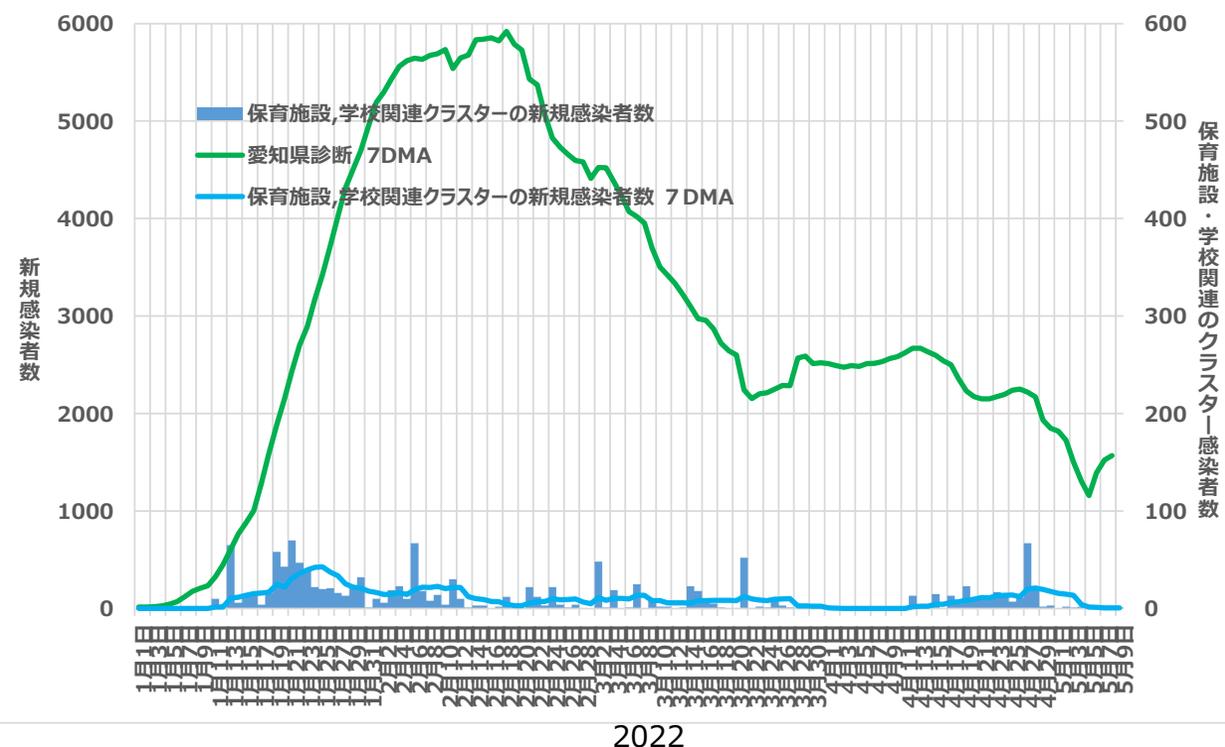


第6,7波での年齢別の Growth Rate (GR) の推移です。2022/1/12頃までは緑線の20代の GR が高く感染を主導していますが、以降は総じて赤線の10未満のGRが高く推移です。直近の連休明けの GR でゼロを越えているのは緑線の20代です(連休中の活動性増加を反映)。

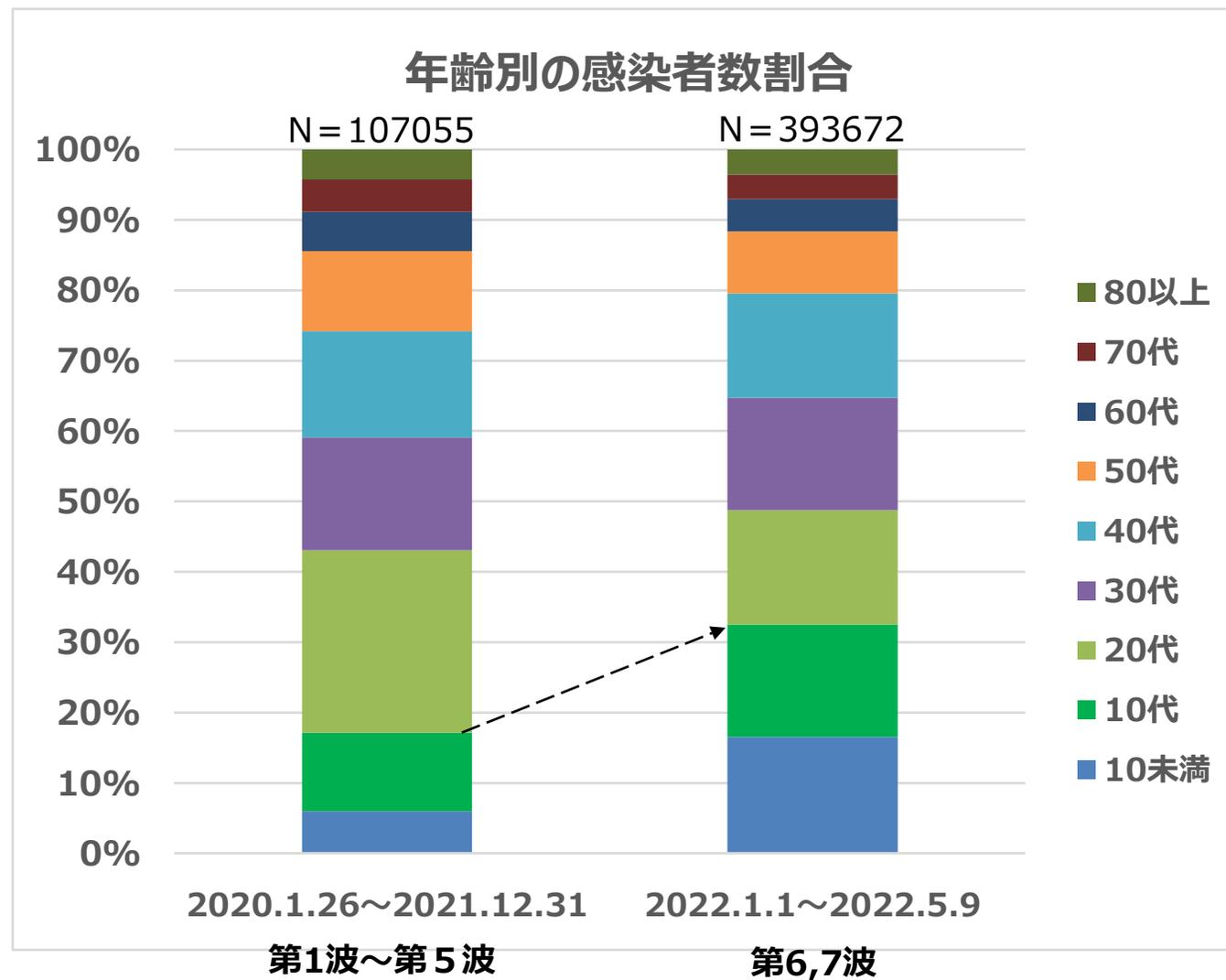
愛知県の第6,7波での高齢者福祉施設関連クラスターの新規感染者数推移



愛知県の第6,7波での保育施設,学校関連クラスターの新規感染者数推移

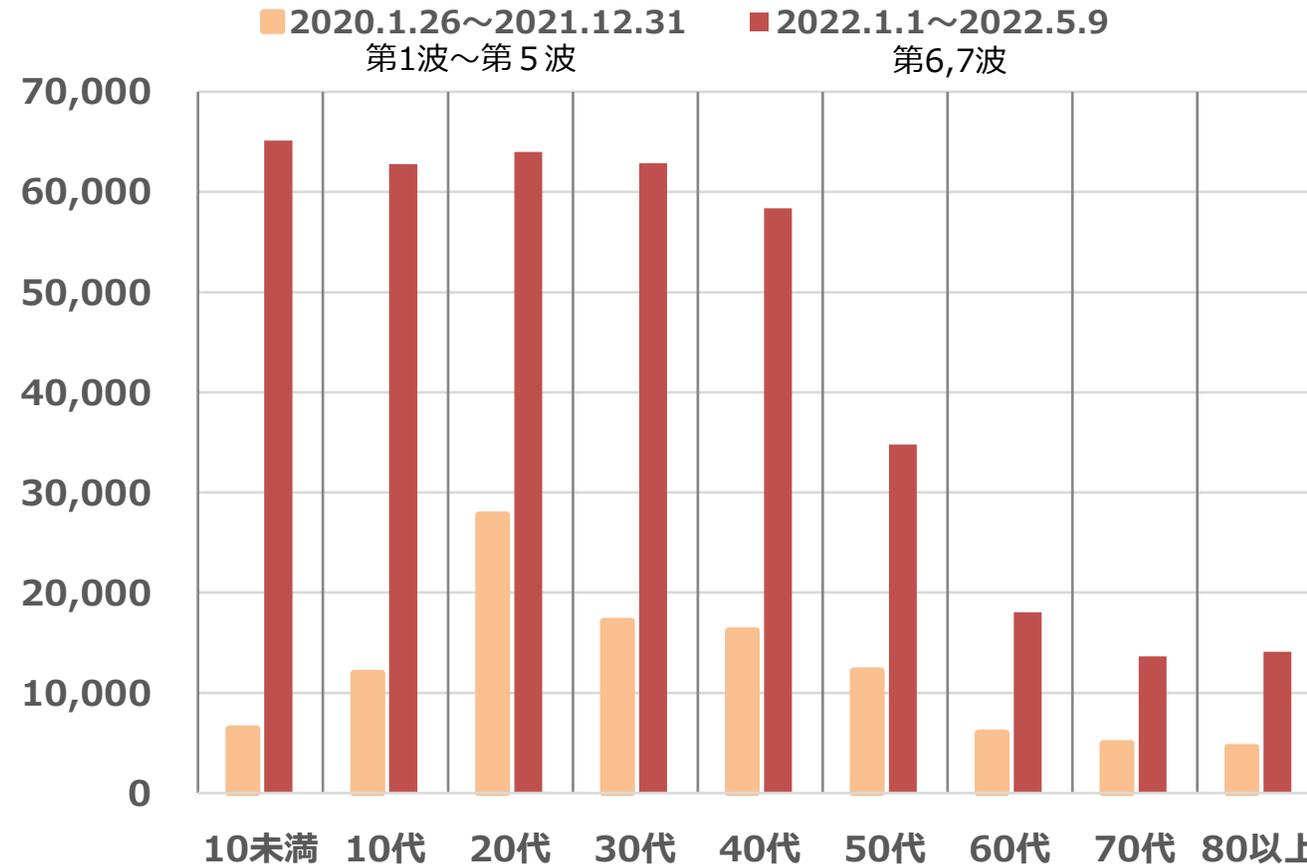


視点を変えた検討です。10未満、10代が第6,7波の主体ですが、意外と保育施設・学校関連のクラスターの感染者数は、高齢者福祉施設関連のクラスターのそれと較べて少ないです。10未満、10代の感染は「市中感染」として広がっていったと推測されます。



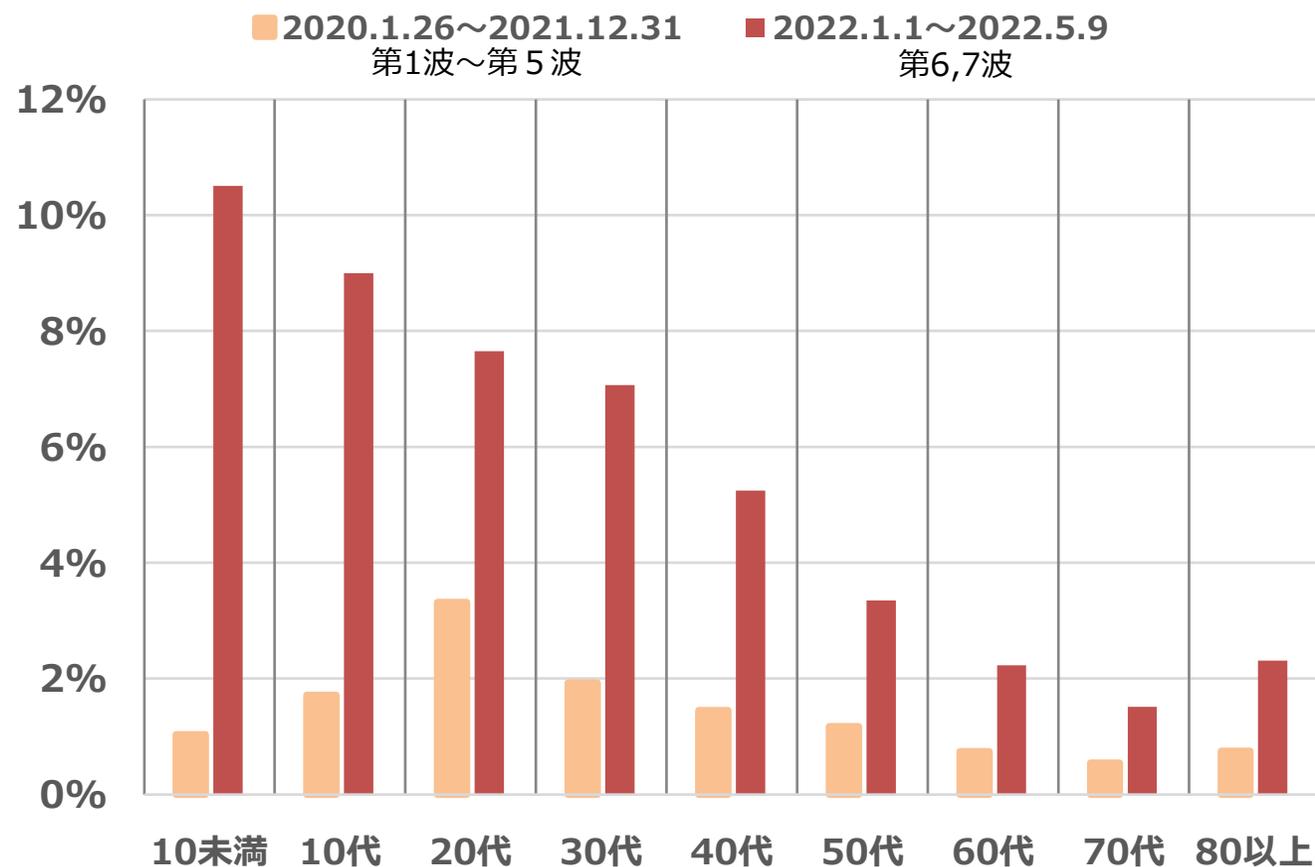
第6,7波の年齢別感染者数割合を、第1波～第5波のそれと較べて示しました。第6,7波の10未満+10代の感染者数は全体の約1/3を占めます。

年齢別の累計感染者数



第6,7波の年齢別の累計感染者数を、第1波～第5波のそれと比較して示しました。
第6,7波のこれまでの10未満～30代の累計感染者数は各々6万人以上です。

年齢別の各々の人口に占める累計感染者の割合



第6,7波の各々の年齢別の人口に対する累計感染者数の比率を第1波~第5波のそれと比較して示しました。第6,7波での10未満累計感染者数は10未満人口の10%、10未満の子供の10人に1人が、これまで今年になって感染したと云う勘定です。把握された感染者数の4倍が実際の感染者数とすると、実に愛知県の10未満の子供の5人に2人が感染です!!

第6,7波(オミクロン株流行)では、10未満、10代が感染者の約1/3を占めます。その殆どは無症候・軽症の「風邪」ですので、小児科、中でも開業されている小児科医療従事者は、現在コロナ医療の最前線に押し出されていると推察されます。そんな中、最近になって Ishikawa の知り合いの2名の開業されている小児科の先生が感染し、一時休診に追い込まれたとの報を受けました。

Ishikawa のレポートは向田隆通先生の御厚意でネットにアップされていますが、これまで個人的に35名(産婦人科医12人、小児科医11人、内科・救急科医6人、医療従事者以外その他6人)の諸兄姉には、その都度メールでレポートのアップを案内させて頂いています。今回緊急に、案内メールに「先生の周囲はどうですか？」との問い合わせを行ってみたところ、これまでに次頁のような回答・コメントが寄せられました。

産婦人科医

「産婦人科では私の知る限り今までに感染した先生は2人です。いずれも他の先生がカバーされていて診療には大きな影響は避けられたようです」

「周囲は割と平穏です」

「クリニックを含め私の周りでコロナ感染は聞きません」

「幸い私の知り合いではコロナ感染で一時休業を余儀なくされた方はいません」

「これまで、2年で、周囲での陽性者はお子さん経由の感染で2名（ともに女医さん、4月頭と4月後半）のみです。あとお子さんが陽性で濃厚接触扱い、が数名でしょうか。印象としては、やはり子供の風邪がコロナに置き換わっている印象です。子供非関連での陽性がないことから考えるに、感染対策にある程度意識の高い医療者が、普通に生活して、感染することはないという理解です。（婚活していた研修医が陽性になった、などの事例はありますし、学部生はやはりちょこちょこ感染します）」

「産婦人科のクリニックの休診は耳にしません、医局の先生方も、3回ワクチン接種を終えているにも関わらず、2名ほど陽性となっています。お子さんからの感染で濃厚接触でお休みされた先生は7名以上いてそのうちの2名と考えると5/7で7割近くは効果ありということでしょうか」

「当大学の産婦人科医師もついにGW前に感染者がでましたが、それ以上に広がることはなく収束しましたので、臨床に影響が出ることはありませんでした。その先生はご自分のお子さんからの感染で、病院内の他職種でも家庭内感染が増えているようです」

小児科医

「H市では3月と4月に開業されている小児科の先生が1名ずつ感染され、2週間休診されていました。そのうち1名の先生は、罹患後1カ月でスタッフ2名が感染されて、二度目の休診せざるを得なくなりました。」

「当方のすぐ近くの小児科で連休前に職員が感染者となり、一時休診となりました。また、コロナと関連があるかどうか分かりませんが、体調を崩されて長期休診となっている近傍小児科開業の先生もおられます。」

「S県内では、医師やスタッフが感染してしまって小児科の運営が、、、という話は聞こえてきませんが、たまたまかもしれません。予防接種をしておらずに最後まで残る感受性者である小児に接する機会がある以上、今後は油断ならないのかもしれないですね」

「感染しました。成人の検査は、自己採取で鼻腔や唾液でしているクリニックが多いため、採取時の感染機会は低いですが、小児は、自己採取が難しいため、大暴れする子供を看護師が押さえつけながら、鼻咽頭拭い液を採取するため、検体採取時の感染機会は高いと思います。医療関係者の専門別の感染頻度のデータがあれば、面白いですね」

内科、救急科医

「私の周りには感染者はポコポコと出ている感じです」

隠居の身ですので、この程度のアンケート(?)しかできません。現役で「愛知県のキムジョンイル(?)」であったら、直ちに医会、学会に働きかけて緊急の実態調査を行い、その結果を踏まえて、一時休診に追い込まれた小児科開業医の先生方への人的、財政的支援システムの構築に動くのですが…。残念です。なお、日本医師会は一時休診の際の保険を案内しています【令和4年1月始期】[新型コロナウイルス感染症対応日本医師会休業補償制度](#) | [新型コロナウイルス感染症](#) | [感染症関連情報](#) | [医師のみなさまへ](#) | [日本医師会 \(med.or.jp\)](#)。